

項目別状況（小項目）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供すること。

- (1) 広島市民病院、(2) 安佐市民病院

中期目標	<p>総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、引き続き、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供すること。安佐市民病院は、広島市の北部だけでなく、市域、県域を越えた北部地域の中核病院としての機能の拡充を図ること。</p> <p>ア 広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を提供するとともに、広島市が進める救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は二次救急医療機関であるが、北部地域の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療の提供を行うこと。</p> <p>イ 地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績を生かし、引き続きがん診療機能の充実を図ること。広島市民病院は、平成27年度開設予定の「高精度放射線治療センター（仮称）」において、広島大学病院等と連携して放射線治療に関する医療水準の向上に取り組むこと。</p> <p>ウ 広島市民病院は、総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊娠婦や新生児への周産期医療を提供すること。</p> <p>エ 災害拠点病院として、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制の確保を図ること。</p> <p>オ 安佐市民病院は、へき地医療拠点病院として、また、市域、県域を越えた北部地域の中核病院として、北部地域医療機関に対する医師の派遣や医療従事者の研修等の支援に取り組むこと。</p>
	<p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(1) 広島市民病院</p> <p>総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、引き続き、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供します。</p> <p>ア 救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期レベルの一次救急医療から、救命救急センターを備え一刻を争う重篤患者に対する三次救急医療までを24時間365日体制で提供します。 ・受入困難事案の救急患者を一旦受け入れ初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院として、本格的な運営に取り組みます。 ・医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。 ・医師、薬剤師、看護師の増員等により、救急患者の受入体制を強化します。

【主な取組】	関連指標															
<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供した。 ○ 救急医療コントロール病院として、支援病院と連携して、救急患者の受入れを行うとともに、24時間救急患者の手術に対応するため、看護師を増員した。 ○ 救急患者の受入体制の強化を図るため、平成29年10月、ICU内にHCU4床を併設した。 ○ 夜間急病センターでの診療待ち時間を表示するなど、同センターとの連携を図った。 ○ 医師、薬剤師、看護師等を増員し、救急患者の受入体制の強化を図った。 	<p>＜参考実績＞</p> <p>（救急外来からの入院患者数と支援病院等への救急転院患者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>救急外来からの入院患者数</th><th>支援病院等への救急転院患者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td><td>3,737人</td><td>746人</td></tr> <tr> <td>27</td><td>3,783人</td><td>682人</td></tr> <tr> <td>28</td><td>3,917人</td><td>673人</td></tr> <tr> <td>29</td><td>4,130人</td><td>585人</td></tr> </tbody> </table>	年度	救急外来からの入院患者数	支援病院等への救急転院患者数	26	3,737人	746人	27	3,783人	682人	28	3,917人	673人	29	4,130人	585人
年度	救急外来からの入院患者数	支援病院等への救急転院患者数														
26	3,737人	746人														
27	3,783人	682人														
28	3,917人	673人														
29	4,130人	585人														

中期計画	イ がん診療機能の充実	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度							
3	3	3	3							
<ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を生かし、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療を行います。 ・がんに関する様々な情報を病院内の医療情報サロンやホームページ等で提供するとともに、患者やその家族が定期的に情報交換・交流できる場を提供します。 ・平成27年度開設予定の「高精度放射線治療センター（仮称）」へ医療スタッフを派遣するとともに、当該センターと連携して質の高い医療を提供します。 										

【主な取組】	関連指標	<p>＜参考実績＞ (広島市民病院からH I P R A Cへの患者紹介)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td><td>17人</td></tr> <tr> <td>28</td><td>59人</td></tr> <tr> <td>29</td><td>61人</td></tr> </tbody> </table>	年度	人数	27	17人	28	59人	29	61人
年度	人数									
27	17人									
28	59人									
29	61人									
<ul style="list-style-type: none"> ○ 診療科ごとに、毎週、キャンサーボード（病理、放射線部門等他職種を交えた診療協議）を行い、手術、化学療法及び放射線治療を適切に組み合わせた治療を実施した。また、困難事例については、必要に応じて、病院全体のキャンサーボードを行った。 ○ 医療情報サロンやホームページでがんに関する様々な情報を提供するとともに、同サロンにおいて、毎月、院内の医師や外部講師を招へいして、患者とその家族の集いを開催した。 ○ 医療支援センター内のがん診療相談室において、がん患者やその家族の様々な相談に応じるとともに、スタッフを増員し、相談機能の充実・強化を図った。 ○ 平成27年10月に開設した広島がん高精度放射線治療センター（H I P R A C）の要員として、平成27年度から診療放射線技師1名を派遣するとともに、広島市民病院等から患者紹介を行った。 ○ 高精度放射線治療システム（リニアック）を更新し、平成28年10月から運用を開始した。 										

中期計画	ウ 周産期医療の提供 総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児に対する医療等、母体、胎児及び新生児に対する総合的で高度な周産期医療を提供します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】	○ 新生児部門は、N I C U（新生児集中治療室）9床、G C U（新生児治療回復室）24床で運営し、 産科部門は、一般病床36床で運営し、総合的な周産期医療を提供した。 ○ 看護師を増員し、G C Uの看護体制の強化を図った。	関連指標																		
		<参考実績> (新生児部門及び産科部門の受入状況)																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>新生児部門（人）</th><th>産科部門（件）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td><td>380</td><td>969</td></tr> <tr> <td>27</td><td>359</td><td>995</td></tr> <tr> <td>28</td><td>325</td><td>1,013</td></tr> <tr> <td>29</td><td>374</td><td>1,003</td></tr> </tbody> </table>	年度	新生児部門（人）	産科部門（件）	26	380	969	27	359	995	28	325	1,013	29	374	1,003			
年度	新生児部門（人）	産科部門（件）																		
26	380	969																		
27	359	995																		
28	325	1,013																		
29	374	1,003																		

中期計画	エ 災害医療の提供 ・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 ・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・D M A T（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

【主な取組】	○ 災害時に備え、自家発電設備等ライフラインの機能の維持、患者用の食糧、飲料水の確保、医薬品の備蓄に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。 ○ 平成26年8月20日の豪雨災害発生時には広島県からの要請に基づき、D M A Tチームを派遣した。また、広島市からの要請により、医療救護班を避難所へ派遣（10回）するとともに、夜間も医師を避難所へ常駐させた。 ○ 平成28年熊本地震の際は、広島県からの要請により、D M A Tチームを派遣し、現地での医療活動に従事した。 ○ 看護師に公益社団法人広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナースの登録を行った。	13

中期計画	<p>オ 低侵襲手術等の拡充 内視鏡手術をはじめとした患者の身体的負担が少ない低侵襲手術等を拡充します。特に、内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術の対象領域の拡大を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

【主な取組】	<p>○ 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」（平成24年9月設置）の活用など、患者の身体的負担が少ない内視鏡手術等を推進した。</p>	関連指標						
		<参考実績>						
		(内視鏡手術等件数)						
		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
		内視鏡手術	963	995	1,791	1,934		
		内視鏡的 治療 (ESD)	食道 胃 大腸 計	30 249 47 326	37 243 84 364	41 237 62 340		
						51 264 88 403		
		(内視鏡下手術)						
		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
		内視鏡下手術（ダヴィンチ）	134	144	149	112		

中期計画	<p>カ 専門外来の実施 各分野の専門医師や認定看護師等による緩和ケア外来、女性外来など医療ニーズに対応した専門外来を引き続き実施します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】	<p>○ 専門医師による緩和ケア外来診療を行うとともに、女性の多様な医療ニーズに対応するため、女性外来を行った。</p>	関連指標						
		<参考実績>						
		(緩和ケア外来の受診状況)						
		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
		初 診	55	53	72	50		
		再 診	495	825	830	542		

中期計画	<p>キ 手術室の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の身体的負担が少なく、より効果的、効率的な手術を行うため、カテーテル治療とバイパス手術などの外科手術を同時に実行することができるハイブリッド手術室を整備します。 ・手術件数の増加に対応するため、手術室等の増設を行います。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	4	4

【主な取組】		関連指標					
		<参考実績>					
		(ハイブリッド手術室等の状況)					
区分	平成26年度 以前	平成27年度 以降	手術件数				
ハイブリッド手術室	—	1室	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
一般手術室	12室	15室 (うち内視鏡手術1室)	8,718件	8,863件	8,981件	9,344件	
計	12室	16室	8,718件	9,097件	9,301件	9,735件	
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
TAVI実施実績	9例	41例	59例				

中期計画	ク CEセンターの設置	臨床工学技士（CE）の増員とセンターの設置により、高度で専門的な医療機器の管理の集約化を図るとともに、各部門で医療機器の操作を行う臨床工学技士間の連携を強化します。	事業年度評価結果（小項目）			
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
			3	3	3	3

【主な取組】
○ 平成26年度に人工腎臓センターの透析業務、手術室の人工心肺業務、医療機器の保守管理業務等を所掌するCEセンターを設置し、同センターを統括する技師長を配置した。
○ ハイブリッド手術室の整備にあわせ、24時間対応できるよう、臨床検査技師を増員し、当直体制を整備した。

中期計画	ケ 病棟薬剤業務の充実	入院患者への服薬指導、副作用等の管理を行う専任の薬剤師を病棟に配置し、医療安全の推進及び薬物療法の質の向上、医師及び看護師の負担軽減を図ります。	事業年度評価結果（小項目）			
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
			3	2	3	3

【主な取組】	関連指標										
	<参考実績>										
○ 病棟における服薬指導の充実を図るため、全ての病棟に専任の薬剤師を配置することを計画的に進めた（平成26年度～平成29年度）。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師の増員状況</td> <td>5名</td> <td>3名</td> <td>7名</td> <td>5名</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	薬剤師の増員状況	5名	3名	7名	5名
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度							
薬剤師の増員状況	5名	3名	7名	5名							

中期計画	<p>コ 看護体制の充実 病棟夜勤看護師の増員等により、病棟看護体制の充実を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 年度中途の採用試験を実施するなど、看護師確保に努めるとともに、育児短時間勤務看護師を夜勤ローテーションに組み込むことにより、病棟夜勤体制の充実に努めた。
- 病棟の看護師の負担を軽減するため、平成28年5月から、業務員による清潔・排泄・食事などの介助業務を開始した。

中期計画	<p>サ 医療機器の計画的な整備・更新 今後の疾病動向や新たな医療機器の機能、医療機器の耐用年数などを考慮して、計画的な医療機器の整備・更新を行います。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- より微細な血管や浸潤部分の鮮明画像が抽出でき、より高度で適切な治療が可能となる3テスラの「磁気共鳴装置（MRI）」を更新した。
- 高精度放射線治療システム（リニアック）を更新し、平成28年10月から運用を開始した。

中期計画	シ 中央棟設備の老朽化等への対応 救命救急センター、ICU（集中治療室）、中央手術室等の病院の中枢機能が集中する中央棟は、築後20年を経過し、建物設備の老朽化、陳腐化が進行していることから、その対応について検討します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

【主な取組】

- 非常用照明電池や電話交換機、空調設備、給食センター等の改修を行った。
- 施設整備の老朽度の調査を行い、中長期病院施設設備改修計画（長寿命化計画）を策定した。

中期計画	<p>1 市立病院として担うべき医療 それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(2) 安佐市民病院 広島市の北部だけでなく市域、県域を越えた北部地域の総合的で高水準な診療機能を有する中核病院として、引き続き、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供します。</p> <p>ア 救急医療の提供 ・ 北部地域の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療を提供します。 ・ 医師、看護師の増員等により、救急患者の受入体制を強化します。また、トリアージ機能を充実させ、迅速、適切な救急処置を行います。 ・ 土日祝日の小児救急患者の受入体制や脳卒中による重篤な救急患者への対応の強化を図ります。 ・ 医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th></tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	4	3	3	4
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
4	3	3	4											

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 北部地域における実質的な三次救急医療を 24 時間 365 日体制で提供した。 ○ 医療相談員（M S W）を増員し、救急患者の相談機能の充実及び強化を図るとともに、看護師を増員し、トリアージ機能の充実を図った。 ○ 平成 28 年度に医師 3 名の当直体制を 24 時までは 4 名に増員するとともに、日勤時間帯についても総合診療科医師が常駐する体制を診療所からの紹介の多い 19 時まで延長することとし、救急患者の受入体制を強化した。 ○ 救急搬送された脳血管疾患者の迅速かつ的確な治療を行うため、脳神経内科と脳神経外科を統合した脳神経センターを設置した。 ○ 一般社団法人安佐医師会が運営する可部夜間急病センターとの連携・協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めた。

中期計画	<p>イ がん診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を生かし、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療を行います。 ・ PET-C T（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）を活用し、がんの早期発見、転移や再発について精度の高い診断を行います。 ・ がんに関する様々な情報を病院内の医療患者サロン「すずらん」やホームページ等で提供するとともに、患者からの電話相談窓口を開設するなど、がん患者に対する相談支援体制を充実します。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th></tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ キャンサーボードを毎週開催し、その中で、ガイドラインでは適応できない症例については院外専門家の意見を聴きながら、手術、化学療法及び放射線治療を適切に組み合わせた治療を実施した。 ○ PET-C Tの活用や全身用マルチスライスC Tシステムの更新等により、精度の高い診断を行った。 ○ がんサロンやホームページでがんに関する様々な情報を提供するとともに、同サロンにおいて毎月、患者等を対象とした研修会を開催した。 ○ 医療支援センター内のがん相談支援センターにおいて、がん患者やその家族の様々な相談に応じるとともに、スタッフの増員や電話相談窓口の設置などにより相談支援の充実を図った。

中期計画	ウ 災害医療の提供	<p>・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。</p> <p>・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。</p> <p>・DMA Tの派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
			4	3	3	3

【主な取組】

- 災害時に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。
- 平成26年8月20日の豪雨災害発生時には、被災者の受入れを行うとともに、広島市からの要請により、医療救護班を派遣した。
- 平成28年熊本地震の際は、広島県からの要請により、DMA Tチームを派遣し、現地での医療活動に従事した。
- 看護師に公益社団法人広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナースの登録を行った。

中期計画	工 へき地医療の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域の医療状況等に応じて、引き続き医師の派遣に取り組みます。 ・北部地域の医療従事者に対する研修の場を提供し、知識の習得や技術の向上を支援するとともに、交流の場を提供します。 	事業年度評価結果（小項目）			
	平成26年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	
		3		3	4	4

【主な取組】

- 北広島町、安芸太田町及び邑南町（島根県）のへき地診療所等へ医師を派遣するとともに、安芸太田病院から依頼のあった読影を行った。
- 北部地域の医療従事者に研修及び交流の場を提供するため、安佐市民病院が事務局として運営している藝州北部ヘルスケアネットワークにおいて、研修会を開催した。
- 北部地域の病院が連携した広島中山間地病院連携地域医療研修プログラム「南斗六星研修ネットひろしま」により、研修医の受入体制を維持した。
- 平成29年2月、安佐市民病院を含む北部地域7医療機関で、随時、診療所等から当該病院への診療相談や医療機関合同のカンファレンスができるようWeb会議システムを導入するとともに、同システムを利用し、診療相談や合同研修会を開催した。

中期計画	才 低侵襲手術等の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡手術をはじめとした、患者の身体的負担が少ない低侵襲手術等を拡充します。 ・患者の身体的負担の少ない日帰り手術を推進します。 	事業年度評価結果（小項目）			
	平成26年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	
		3		3	3	4

【主な取組】

- 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」（平成27年12月設置）や顕微鏡下脊椎脊髄手術の実施などにより、患者の負担の少ない低侵襲手術を推進した。

関連指標

<参考実績>

(内視鏡下手術等の状況) (件)

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
内視鏡下手術（ダヴィンチ）	16	104	103
顕微鏡下脊椎脊髄手術	750	749	778

中期計画	力 リハビリテーションの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中などの発症初期から実施する急性期リハビリテーションの充実を図ります。 ・在宅の心不全患者に対する効果的な心臓リハビリテーションや、発達障害等の小児言語療法、失語症及び構音障害の治療を行う言語療法リハビリテーションを引き続き実施します。 	事業年度評価結果（小項目）			
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
			3	3	3	3

【主な取組】

- 各診療科と連携し、脳血管疾患、廐用症候群などに対する急性期リハビリテーションを実施した。また、がんやがんの治療により生じた障害等に対する二次障害を予防し、患者のQOL（生活の質）の向上を図った。
- 心臓リハビリテーション並びに発達障害等の小児言語療法、失語症及び構音障害の治療を行う言語療法リハビリテーションを実施した。

中期計画	キ 専門外来の実施	各分野の専門医師や認定看護師等によるストーマ外来（人工肛門や人工膀胱を装着している患者へのケア）、助産外来、もの忘れ外来など医療ニーズに対応した専門外来を引き続き実施し、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん化学療法等の専門外来の実施を検討します。	事業年度評価結果（小項目）			
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
			4	4	3	3

【主な取組】

- 緩和ケア専任医師による緩和ケア外来を行うとともに、がん患者の指導・相談、ストーマ外来、助産外来、もの忘れ外来、心不全外来、リンパ浮腫外来等の専門外来を実施した。

中期計画	<p>ク 病棟薬剤業務の充実</p> <p>入院患者への服薬指導、副作用等の管理を行う専任の薬剤師を病棟に配置し、医療安全の推進及び薬物療法の質の向上、医師及び看護師の負担軽減を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 専任の病棟薬剤師を配置し、病棟において充実した服薬指導を実施するとともに、医師及び看護師の負担軽減を図った。

中期計画	<p>ケ 看護体制の充実</p> <p>病棟夜勤看護師の増員等により、病棟看護体制の充実を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 年度中途の採用試験を実施するなど、看護師確保に努めるとともに、育児短時間勤務看護師を夜勤ローテーションに組み込むことにより、病棟夜勤体制の充実に努めた。
- 病棟の看護師の負担を軽減するため、平成28年6月から業務員による清潔・排泄・食事などの介助業務を開始し、7時から21時までを3シフトの勤務体制とし、身体ケアの介助ができるようにした。
- 手術室における診療材料等のピッキング等を委託することにより、看護師の負担を軽減した。

中期計画	<p>□ 医療機器の計画的な整備・更新</p> <p>病院の建替えスケジュールを十分考慮し、計画的な医療機器の整備・更新を行います。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 脳や心臓、腎臓のがん検査など臓器機能の確認検査を行う核医学診断装置を整備した。また、心拍数、血圧、心電図などの情報を継続的に測定し、及び記録する生体情報モニタリングシステムを更新した。
- 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を整備し、患者の負担の少ない低侵襲手術を推進した。
- 放射線治療計画用X線CT（CTシミュレーター）をより高性能なものに更新し、治療精度の向上と治療患者の精神的・肉体的ストレスの軽減を図った。
- 全身用マルチスライスCTシステムをより高画質で低被ばくなものに更新し、診断精度を向上させるとともに、患者及び術者の被ばく線量の低減を図った（稼働は平成29年4月から）。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供すること。

(3) 舟入市民病院

<p>中期目標</p> <p>小児科の24時間365日救急診療や年末年始救急診療等を行う初期及び二次救急医療機関、また、市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、市民生活に不可欠な医療を提供すること。</p> <p>ア 小児救急医療拠点病院として、引き続き安定的な小児救急医療の提供に取り組むとともに、小児心療科等の小児専門医療を提供すること。</p> <p>イ 第二種感染症指定医療機関として、引き続き感染症患者の受入体制を維持すること。併せて、感染症法の改正による担当疾病の変更や受入患者数の大幅な減少を踏まえ、指定病床数を上回っている感染症病床数の見直しを行い、より機能的な病棟業務を行うための環境整備や病院全体の機能向上のために活用すること。</p> <p>ウ 病院機能の有効活用を図る観点から、広島市民病院との連携を強化することにより、双方が補完し合う関係を構築すること。</p>													
<p>中期計画</p> <p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(3) 舟入市民病院</p> <p>小児救急医療拠点病院として、小児救急医療の安定的な提供に取り組むとともに、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者の受入体制を維持します。また、指定病床数を上回っている感染症病床数を見直し、感染症病棟の機能強化等を図るとともに、広島市民病院や地域の医療機関との連携を強化し、病院機能の向上に取り組みます。</p> <p>ア 小児救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科の24時間365日救急診療を安定的に提供するため、引き続き、医師会、広島大学等の協力を得るとともに、市立病院間の応援体制の強化に取り組みます。また、重篤な小児救急患者の円滑な搬送を行うため、三次救急医療機関との連携強化を図ります。 ・トリアージナースの増員や医療コンシェルジェの配置等により、診療体制の強化に取り組みます。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）													
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度										
3	3	3	3										

【主な取組】

- 医師会、広島大学等の協力を得て、24時間365日体制で小児救急を実施した。
- 小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関に搬送し、一方で三次救急医療機関からも主にインフルエンザ患者を積極的に受け入れるなどの連携を図った。
- 外来看護師を増員し、小児救急外来トリアージの体制強化を図るとともに、看護師がバイタルサイン等のデータを入力することで、緊急性の自動判定が可能となるトリアージシステムを運用し、円滑な診療を行った。

中期計画	イ 小児専門医療の提供 小児心療科において、精神療法等の個人療法やグループで治療を行う集団療法により、不登校や摂食障害、神経症等に対する診療を行うとともに、小児皮膚科において、小児科のアレルギー外来と連携し、アトピー疾患専門医による診療を行います。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	4	3	3

【主な取組】	関連指標 <参考実績>					
		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
○ 小児心療科においては、不登校、神経症、摂食障害等思春期特有の症状を呈している子どもに対し、外来診療を行った。また、不登校の小中学生の対人交流を図ることを目的とした集団精神療法を開催した。		集団精神療法	23回	21回	23回	24回
○ 小児皮膚科においては、広島大学病院皮膚科のアトピー疾患専門医により、週1日の外来診療を行った。また、患者への細やかな外用薬の使用指導や院内小児科と連携した診療を行った。		延べ人数	142人	50人	69人	75人

中期計画	<p>ウ 感染症医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二種感染症指定医療機関として、重症急性呼吸器症候群（S A R S）や新型インフルエンザ等の感染症患者への対応が迅速に行えるよう、平常時から医療体制を維持するとともに、感染症発生時の市立病院をはじめとする市内の関連病院との応援体制の確立を図ります。 ・感染症専門資格の取得など教育研修への参加を促進し、職員の専門性の向上を図ります。 ・感染症法の改正による担当疾病的変更及び受入患者数の大幅な減少を踏まえ、指定病床数（16床）を上回っている感染症病床数（50床）を見直し、医療スタッフがより機能的・効率的に病棟業務に従事できるよう感染症病棟の機能強化のための整備を行うとともに、病院全体の機能向上のために活用します。 	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度							
3	3	3	3							

【主な取組】

- 感染症病床を50床から16床に減床する一方で、第二種感染症指定医療機関としての運営体制は維持した。
- 感染制御認定薬剤師（B C P I C）の資格の取得又は更新をするため、感染制御認定薬剤師講習会へ職員が参加したほか、医師、薬剤師及び看護師が日本感染症学会学術講演会等に参加した。
- 感染症対策委員会において中東呼吸器症候群（M E R S）対応のマニュアルの見直しを行った。
- 危険度が極めて高い二類の感染症等が発生した場合に備え、個室の拡張など感染症病棟の改修工事を行った。

中期計画	<p>エ 病院機能の有効活用</p> <p>広島市民病院をはじめとした地域の医療機関との連携強化に取り組み、病床や手術室の利用促進を図ります。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成24年度実績</th><th>平成29年度目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td><td>72.9</td><td>80.0</td></tr> <tr> <td>手術件数 (件)</td><td>599</td><td>700</td></tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率</p>	区分	平成24年度実績	平成29年度目標値	病床利用率 (%)	72.9	80.0	手術件数 (件)	599	700	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	2	3	2
区分	平成24年度実績	平成29年度目標値																	
病床利用率 (%)	72.9	80.0																	
手術件数 (件)	599	700																	
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																
3	2	3	2																

【主な取組】

- 広島市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れるとともに、地域の医療機関からの紹介患者についても受入手順を効率化し、積極的に受け入れた。
- 診療科医師、看護師等による医療連携運用会議を毎月開催し、入院患者の入退院状況の把握、調整を行い、他の医療機関からの受入体制の強化を図った。
- 広島市民病院から手術患者の受け入れを行い、手術室の利用促進を図った。
- 平成27年12月からの地域包括ケア病床の供用開始に伴い、理学療法士を増員し、リハビリテーション機能の充実を図った。

関連指標

<目標値に対する実績>

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
病床利用率 (%)	78.8	76.6	82.9	76.1
手術件数 (件)	637	583	666	649

※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率

中期計画	才 病院の特徴として標榜できる診療の実施検討 今後、病院の特徴として標榜できる診療の実施について検討します。	事業年度評価結果（小項目） <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度							
3	3	3	3							

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部委員を含めたあり方検討委員会を設置し、職員の意見等も踏まえ医療環境の変化に対応した今後のあり方について議論を行い、小児救急や感染症病床を引き続き維持しつつ高齢化に対応した循環器内科の創設等の取組をまとめた。 ○ 健康管理センターを開設し、広島市民病院が行っていた人間ドックの健康診断業務を移管した。

中期計画	力 診療体制の充実 病棟夜勤体制の充実や薬剤業務の強化などにより、診療体制の充実を図ります。	事業年度評価結果（小項目） <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度							
3	3	3	3							

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 深夜勤務帯の配置を見直し、夜勤体制の強化を図るとともに、育児短時間勤務看護師も夜勤ローテーションに組み込むことにより、病棟夜勤体制の充実に努めた。 ○ 看護補助者の勤務時間を拡大し、7時から21時までを2シフトの勤務体制とし、身体ケアの介助を行った。また、業務量に応じた勤務部署の変更を行った。 ○ 4~6階病棟に専任の薬剤師を配置し、平成28年1月から病棟薬剤業務を実施した。

中期計画	<p>キ 医療安全機能の強化</p> <p>医療安全管理者（医療事故防止等の計画・管理・実行責任者）となる専任の看護師の配置等により、医療安全対策、院内感染対策等の充実を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 感染管理認定看護師を配置し、週1回、感染症対策チームによる院内ラウンドを実施した。
- 地域の医療機関との合同カンファレンスの開催、相互の院内ラウンドの実施による他病院の感染防止対策の把握などを通じ、感染防止対策の強化を図った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供すること。

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設

中期目標	<p>脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者に対する高度で専門的な医療及び訓練等の一貫したリハビリテーションサービスを提供すること。</p> <p>ア リハビリテーション病院は、急性期医療を終えた患者に対して、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供すること。特に、広島市民病院、安佐市民病院との連携を強化し、急性期の疾病治療・リハビリテーションから回復期のリハビリテーションが、連続的、一体的に提供できるようにすること。</p> <p>イ 自立訓練施設は、リハビリテーション病院退院者の受入れなど病院との連携を図りながら、利用者の家庭や職場、地域での生活の再構築のための訓練等を行うこと。</p> <p>ウ リハビリテーション病院及び自立訓練施設は、利用者の様々な相談に応じるとともに、地域の医療・保健・福祉機関と連携して、退院・退所後の生活を支援すること。また、同一施設内の広島市身体障害者更生相談所が取り組む、地域の身体障害者の相談支援や地域リハビリテーションなどの活動にも関わり、総合的なリハビリテーションサービスを提供すること。</p> <p>エ リハビリテーション病院と他の市立病院間で、リハビリテーション医療に従事する医師や療法士等の異動、派遣等の交流を進め、リハビリテーション医療の質の向上と、市立病院におけるリハビリテーション医療の安定的な提供を図ること。</p> <p>オ リハビリテーション病院は、病院の立地条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院のバックアップ機能を強化すること。</p>
	<p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設</p> <p>脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供します。また、広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。</p> <p>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供</p> <p>広島市身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の運営責任者で構成する常設の運営調整会議を設置し、連携の維持を図り、これまでどおり3施設が連携した総合的なリハビリテーションサービスを提供します。</p>

事業年度評価結果（小項目）			
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	3	3	3

【主な取組】

- 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供した。
- 一貫したリハビリテーションサービスを提供するため、リハビリテーション病院、自立訓練施設及び広島市身体障害者更生相談所の運営責任者で構成する運営調整会議を開催し、3施設の連携を図った。

中期計画	<p>イ 回復期リハビリテーション医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 365日、切れ目なくリハビリテーション医療が提供できる体制を整備し、より効果的な回復期リハビリテーション医療を提供します。 広島市民病院、安佐市民病院との患者情報のスムーズな伝達、共有化等による連携の強化を図り、急性期の疾病治療・リハビリテーションから回復期のリハビリテーションまでを連続的・一体的に提供します。 退院後の患者を中心に継続的なリハビリテーション医療を提供するため、言語外来など在宅療養への支援の充実を図ります。 <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成24年度実績</th><th>平成29年度目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）</td><td>6.6</td><td>8.0</td></tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td><td>81.3</td><td>82.0</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成24年度実績	平成29年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	6.6	8.0	在宅復帰率（%）	81.3	82.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th></tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	4	3	3	4
区分	平成24年度実績	平成29年度目標値																					
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	6.6	8.0																					
在宅復帰率（%）	81.3	82.0																					
事業年度評価結果（小項目）																							
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																				
4	3	3	4																				

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 365日切れ目ないリハビリテーション医療を提供する体制を整備し、効果的な回復期リハビリテーション医療を提供した。 広島市民病院及び安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。 広島市民病院リハビリテーション科への診療支援として、毎週、リハビリテーション病院の医師がカンファレンスに出席し、患者及び家族のリハビリテーション計画を策定するとともに、リハビリテーション病院に転院予定の患者の診察や、リハビリテーション適応について検討した。 退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、言語聴覚士を増員し、言語外来の充実を図るとともに、平成28年度から理学療法と作業療法の外来を開始した。 	<p>関連指標</p> <p><目標値に対する実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）</td><td>7.8</td><td>7.8</td><td>7.9</td><td>8.4</td></tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td><td>81.5</td><td>82.6</td><td>80.9</td><td>81.2</td></tr> </tbody> </table> <p><参考実績></p> <p>広島市民病院及び安佐市民病院からの入院患者の受入れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td><td>141人</td><td>140人</td><td>106人</td><td>112人</td></tr> <tr> <td>安佐市民病院</td><td>51人</td><td>61人</td><td>48人</td><td>64人</td></tr> </tbody> </table> <p>(外来リハビリテーションの実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語</td><td>延人数 1,313人</td><td>1,364人</td><td>1,621人</td><td>2,074人</td></tr> <tr> <td>療法</td><td>実施単位数 3,911単位</td><td>4,082単位</td><td>4,858単位</td><td>6,220単位</td></tr> <tr> <td>理学</td><td>延人数 -</td><td>-</td><td>158人</td><td>623人</td></tr> <tr> <td>療法</td><td>実施単位数 -</td><td>-</td><td>474単位</td><td>1,916単位</td></tr> <tr> <td>作業</td><td>延人数 -</td><td>-</td><td>296人</td><td>857人</td></tr> <tr> <td>療法</td><td>実施単位数 -</td><td>-</td><td>875単位</td><td>2,550単位</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	7.8	7.8	7.9	8.4	在宅復帰率（%）	81.5	82.6	80.9	81.2	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	広島市民病院	141人	140人	106人	112人	安佐市民病院	51人	61人	48人	64人	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	言語	延人数 1,313人	1,364人	1,621人	2,074人	療法	実施単位数 3,911単位	4,082単位	4,858単位	6,220単位	理学	延人数 -	-	158人	623人	療法	実施単位数 -	-	474単位	1,916単位	作業	延人数 -	-	296人	857人	療法	実施単位数 -	-	875単位	2,550単位
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																														
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位／日）	7.8	7.8	7.9	8.4																																																														
在宅復帰率（%）	81.5	82.6	80.9	81.2																																																														
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																														
広島市民病院	141人	140人	106人	112人																																																														
安佐市民病院	51人	61人	48人	64人																																																														
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																														
言語	延人数 1,313人	1,364人	1,621人	2,074人																																																														
療法	実施単位数 3,911単位	4,082単位	4,858単位	6,220単位																																																														
理学	延人数 -	-	158人	623人																																																														
療法	実施単位数 -	-	474単位	1,916単位																																																														
作業	延人数 -	-	296人	857人																																																														
療法	実施単位数 -	-	875単位	2,550単位																																																														

中期計画	ウ 看護体制の充実												
	・看護師の増員により、重症患者の受入体制の強化を図ります。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）													
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度										
3	3	3	3										

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 重症患者の受入体制を強化するため、段階的に病棟介護士の嘱託職員の正規職員化及びその拡充に努めた。 ○ 年度中途の採用試験を実施するなど看護師確保に努めるとともに、病棟の夜勤体制を強化するため、育児短時間勤務看護師の夜勤ローテーションに組み込むことを進めた。

中期計画	エ 自立訓練施設の利用促進												
	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 ・福祉事務所等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成24年度実績</th><th>平成29年度目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月平均利用者数 (人)</td><td>48.8</td><td>52.0</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成24年度実績	平成29年度目標値	月平均利用者数 (人)	48.8	52.0						
区分	平成24年度実績	平成29年度目標値											
月平均利用者数 (人)	48.8	52.0											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	2	2	2
事業年度評価結果（小項目）													
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度										
3	2	2	2										

【主な取組】	関連指標												
	<目標値に対する実績>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成25年度</th><th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月平均利用者数 (人)</td><td>37.4</td><td>35.7</td><td>40.8</td><td>38.2</td><td>37.3</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	月平均利用者数 (人)	37.4	35.7	40.8	38.2	37.3
区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度								
月平均利用者数 (人)	37.4	35.7	40.8	38.2	37.3								

中期計画	<p>オ 相談機能の強化と地域リハビリテーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じた退院・退所後の生活支援ができるよう、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談体制を整備し、相談機能を強化します。 ・広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th></tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

- 医療支援室を設置するとともに、医療相談員の増員などにより相談機能の強化を図った。
- リハビリテーションをテーマとした市民対象の講座を開催するとともに、医療機関等の技術支援を図る研修会を開催した。また、広島市身体障害者更生相談所と連携して、院内において車椅子や歩行器などの福祉用具の展示会及び研修会を開催した。
- リハビリテーション病院内に平成27年9月に設置した身体障害者特定相談支援事業所の相談支援専門員により、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画案」の作成など、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談支援を行った。

中期計画	<p>カ リハビリテーション医療従事者の市立病院間の交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション病院と他の市立病院で、リハビリテーション医療に従事する医師や療法士等の人事交流を進め、市立病院におけるリハビリテーション医療の質の向上と安定的な提供を図ります。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

- 広島市民病院リハビリテーション科への診療支援として、毎週、リハビリテーション病院の医師がカンファレンスに出席し、患者及び家族のリハビリテーション計画を策定した。また、舟入市民病院への診療支援として、リハビリテーション病院の歯科医師と歯科衛生士が、嚥下評価、摂食機能療法の指導、口腔ケアの実施と指導、栄養サポートチーム（N S T）への参加などを行い、嚥下リハビリテーションの実践と向上に貢献した。
- リハビリテーション病院と他の市立病院のリハビリテーション医療従事者が情報交換、協議を行う部門会議を開催するとともに、職員の人事交流等を進め、4病院の連携、医療の質の向上を図った。

中期計画	<p>キ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化</p> <p>西風新都に立地し、高速道路インターチェンジに近接するというリハビリテーション病院の地理的条件を生かし、デルタ市街地が被災した場合に備え、他の市立病院の診療情報の保管や医薬品等の備蓄などバックアップ機能の強化を図るとともに、DMA Tの受入拠点、広域搬送拠点としての活用について検討します。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

- 他の市立病院の状況を踏まえ、必要なバックアップの具体的な内容（リハビリテーション病院の診療情報管理システムの更新と合わせた他病院の診療情報の保管や保管する医薬品の数量及び管理办法等について）等の検討を行った。
- DMA Tの受入拠点及び広域搬送拠点として施設内の提供可能なスペース等の想定などの活用の具体的な内容について、検討を行った。